The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	絲綢之路日中取材壮挙を祝う
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1981, 34, p. 3-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86086
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

絲綢之路日中取材壮挙を祝う

財団法人 大阪防疫協会
理事長 辻野直三郎

砂漠と水と城の因縁

はじめに

シルクロードについて私が興味を持つようになったのは、昭和五二・九・二三日より五回にわたって井上靖先生（文）東山魁夷画伯（絵）名で、日本経済新聞に「西域の旅から」が連載されたのを拝見してからのことである。

◎日中友好取材班の活躍

今回日中友好確立を記念して、数千年来の秘境の地シルクロードを中心として選ばれたNHKが、中華人民共和国中央電視台と共同取材班を編成し、秘境の世界をテレビ映像を通じて内外に放映されたことは、往時シルクロードを通じて東西文化の交流にもたらした歴史を探ぐるその意義まことに大なるものがある。しかし、この壮挙には想像を絶する砂漠地帯という非常な難関未踏神秘の地域が横たわっている。北にはアジアの屋根と称せられる天山山脈、南には崑崙（こんろん）山脈、中央には東西六〇〇〇里?を流れるタリウム河と東部に黄河の二大河とその支流があり、その周辺には広大なタクラマカン砂漠及びゴビ砂漠などがあって、この大自然は極度に風土、地形、気候を左右する。そしてこの大河、砂漠は時を選ばず、時にオアシスを造り、時には湖の所を変える。そしてそれに呼応して民族は異動し、都市、城郭は興亡を繰りかえす。

◎西域とは如何なる地か

中国の古代史書には簡単に「西域」と呼称している。唯なんとなく、中国西方に住む異民族の居住地域を総称しているようである。これよりみて、その地域はチベット、蒙古、タングート、トルコ（トルキスタン）、ペルシャ、アフガニスタン人などが居住していた地域と見るべきか?或は民族的に見て北方遊牧民族である匈奴（キョウド）、突厥（トッケツ）、吐蕃（トバン）もこれに加えるべきか?

匈奴（キョウド）とは、前三世紀末より約五世紀にわたって蒙古に繁栄した遊牧騎馬民族である。周の記録に見える遊牧民族猃狁（ケンイン）の子孫である。中国の戦国時代にオルドスを根拠地として、燕、趙、秦の北境をしばしば侵した。

吐蕃（チベット）中国の南西部の地区、一九六五年九月正式にチベット自治区として発足、中国の西に位置するため西蔵と呼んだ。北は新疆ウイグル自治区と青海省に、東は四川省、南はネパール、シッキム、ブータン、カシミール、インドに接する。主都ラサであり高原地帯である。

突厥（トッケツ）、六世紀半頃から約二〇〇年間蒙古を中心に中央アジアにかけて樹立した、トルコ族遊牧国家およびその支配部属の名である。

◎シルク（絲綢）の発明時期と文化交流の原点

紀元前二二〇〇～一七〇〇年頃の遺跡からマユガラ（繭殻）が発見されていることから、その後シルク製造技術発展へと進歩の道を歩んだものと想像される。このシルクの発展を中心として中国側から西方へ、西方からは各種の文物が交流された。この事実は中国に存在する宗教、寺院、建造物、仏像、器具等が、遺跡より多数発掘発見されたことによって疑う余地のないことである。例として今回の取材班の前に、千古の秘宝千仏洞石窟から絵画、仏像など多数の貴重な文化財が発見されている。

◎シルクロード盛衰の都

楼蘭（ローラン）を制するものはシルクロードを支配し、タクラマカン全域を掌中にするといわれた重要な地点である。それは砂漠の中にあって、都市として最も重要な住民の生命を守る給水源ロブ・ノール（羅布泊）があるからである。

史記に「楼蘭ノ邑ニハ城郭ガアリ、塩沢（塩水湖）ニ臨ム。塩沢は長安ヲ去ルコト、オヨソ五千里（二千五百キロ）ナリ」と記されている。その楼蘭王国の概況を漢書「西域伝」に伝えている。「戸数ハ一、五七〇戸、人口一四、一〇〇人、兵士ノ数二、九一二人、玉を産シ葭葦（ヨシ）、檉柳（リスク）、胡桐（コトウ）、白草多シ。人ハ牧畜ヲ行ナイ、水草ヲ遂ッテ生活ヲスル。驢馬（ロバ）ヲ飼イ駱駝（ラクダ）多シ、戦ニ巧ミナコト婼羌（ジャクキョウ）（チベット族）ノ如シ」と、その楼蘭王国も匈奴と漢帝国の間に立って苦慮し、遂に後漢の明帝の時代に至って忠誠を誓って存続を保つに至った。しかしながらこの楼蘭王国も砂漠の猛威の前に給水源ロブ・ノールも無力となり、遂に地形の変動によって滅亡するに至ったか?定かでない。

◎幻の黒水城（カラホト）

黒く荒れ果てた恐ろしい城

酒泉（チウチュワン）、取材班によるとエチナ河の左ゴビ砂漠を大きく左廻通過して、エチナ旗（日本の郡に相当するか）を経てカラホトに至る。このカラホトはチベット系タングート族によって謎の国、西夏王国の大都城であったことが、ロシア人コズロフ大佐によって一九〇二年にその遺跡が発見された。このカラホトは現在内蒙古自治区に属している。

自治区とは少数民族の伝統、風俗、慣習、言語等を重んじて、自治を中国が認めている。この

西夏王国もジンギスカンの出兵要求に応ぜず、一二二七年に二〇〇年足らずして滅亡した。カラホトは黒水城と称し黒く荒れ果てた恐ろしい城として、当時から近寄り難い所とされた伝説の地であって、そこには順順諾爾（居延海）ガシューブ・ノールがある。新疆（シンチャン）ウイグル自治区は林檎など果物の名産地である。

特にゴビ砂漠を旅行する人の常識として

イ、梭々（ソウ）の木のある所は水が非常に少ない地

ロ、紅柳のある所は少し水気がある地

ハ、胡楊のある所は井戸かオアシスがある地。この胡楊は高さ二〇米にも達するものもある。

唐の太宗時代に「ボロ」なる打毬（ダキュウ）の競技があったがボロとはチベット語で「柳の根」で作られた毬のことである。

◎シルクロードの交通機関

その第一に「砂漠の舟」と称せられる駱駝（ラクダ）があげられる。広大な地上砂漠地帯にこれなくては交通は不可能であろう。

蒙古産の馬もその重要性を認められている。

渡河には勿論舟艇は必要であるが、羊袋（ヨウタイ）なるものが筏に取付けられ使用されている。

◎河西回廊と敦煌（トンホワン）

長安（現西安、往時一、〇〇〇年余繁栄した都）を出発して西へ蘭州に至る。この地は河西回廊の始点となって武威、張掖、酒泉、敦煌に達して終点となる。この河西回廊を設定した当時の情勢は、紀元前一一一年漢の武帝が、西域経営と交戦に常なき対匈奴作戦の前線基地として設けたものである。そのため敦煌は二千年前までは純然たる軍事基地たる性格を保持し、西方砂漠の地に玉門関、陽関などの国境関門を設け、八〇キロの処に烽燧台（のろし台）を備えた。これは匈奴の侵入を発見するや直ちに「のろし」をあげて防戦態勢を完備したのである。その後幾世紀を経て、軍事基地より政治的都市に移行したことは当然の推移であろう。なお敦煌の由来は敦は大きい、煌は盛んの義で、漢の武帝の対匈奴に対する意気ごみの程が感知できるものである。

◎絲綢之路を探検した人びと

シルクロードを探検した人びとは多数あるが、限られた紙数のためその一部を紹介するに止める。

一、玄奘三蔵（ゲンジョウサンゾウ）　中国人

二、コズロフ　ロシア人

三、スタイン　イギリス人

四、ヘデイン　スウェーデン人

五、ペリオ　フランス人

六、大谷探険隊　日本人

代表大谷光瑞

七、マルコ・ポーロ　イタリヤ人

末尾にはこれらの方がたの探検概要を記載した。

むすび

中華人民共和国の数千年にわたる世界の秘境の地を、私ごとき鈍根にして菲才のものが、これを記述するなどはその器にあらざるを痛感するも、今回の日中取材班の壮挙が非常な難関を克服して成功裡に終ったことに感激し、喜びのあまりその身分をかえりみず敢て拙ないペンをとった。これは私達に関係の深い「水」が、大陸においても農耕灌漑用水として利用されることは勿論、生命維持のため欠くことのできない天より賦与された水であり、殊に砂漠の中の大河川と伏流水の変動が、城市（都市）の興亡と民族の移動に重大な影響をあたえたことを寸言致したいためにほかならない。

乞うご叱正を。

参考資料　NHK取材班シルクロード

平凡社世界百科大事典

同　世界地図

○玄奘三蔵　六〇二―六六四

河南省陣留の人

西域インドの大旅行家。多くの経論の伝訳者として有名六二二年蜀で具足の戒を受けた。当時入国を禁止されていたインド留学を決意。六二七～六二九の間に多くの苦難を克服してアフガニスタンからインドに入国し各地の仏跡を巡拝しナーランダー寺に止まり勉学するほかインド内陸部を旅行大乗天又は解脱天というインド名で仏教界に高名をはせた。六四五に長安に帰る。「西域記」は7世紀の西域インドの事情を伝える最も正確な地誌として有名である。

小説「西遊記」一九年間にわたり「大般若経」六〇〇巻大小乗の経論を訳すること七四部三三五巻に及んでいる。これは仏教界不滅の大聖典と称すべきである。

この翻訳した経典は長安の大恩寺（大雁塔）に保存されている。

○コズロフ

Pyotr Kujmich Kozlor 1863-1935

ロシア人、中央アジア探検家

東トルキスタン崑崙ジュンガリア地方調査。エチナ河畔にある西夏時代（一三世紀）廃都カラホト（黒水城）を発見発掘して仏像仏画経文、紙幣その他多くの遺物を収集して東洋史、東洋美術史の研究に資料を提供した。

○スタイン

Sir marc Aurel stein 1862-1943

ハンガリー生、イギリスの探検家。

新疆省（現ウイグル自治区）探検を行う。インドからタクラマカン南辺に入り未踏査地域や古代遺跡の発掘など行なった。特に敦煌の石窟から漢文その他多量の文書や長城跡などから漢文木簡を発見またカラホト廃虚やトゥルファン盆地の古墓発掘などで有名である。

○ヘデイン

Sren Andes Hedin 1865-1952

スウェーデンの地理学者。中央アジア探検家。

パミール高原からタリウム盆地に入り、タクラマカン砂漠の横断を企だてた。またロブ・ノール湖に至りチベット北部ツアイダム盆地を調査、楼蘭（ローラン）の遺跡を発掘した。

ペリオ

Paul Pelliot　1878-1945

フランス人にして東洋学者。

一九〇六ー〇八中央アジア探検隊を率いて東トルキスタン及び中国西域を踏査一九〇七に敦煌千仏洞（六巻）、南北朝から宋、元に及ぶ古写本数千巻、絵画、彫刻等を発見し東洋学、中国の研究に新紀元を画した。

○大谷探検隊

浄土真宗本願寺派法主第二二世故大谷光瑞　1876-1948

明治三五ー大正三。三次にわたって組織された。目的は仏教が中国に伝わってきた経過をさぐり経典など収集のため探検。中央アジア、インド、チベットなどの秘境に入る。この間仏教経典、社会経済資料、西域語文献、絵画、彫刻など世界最古の経典「諸仏要集約」（西歴二九六年）から六世紀唐代までのもの。（以下省略）